

必要か？リニア新幹線

8月9日、亀山市の「あいあい」でリニア新幹線についての講演会を行いました（共産党鈴鹿・亀山市議団主催）。講師はリニア問題の第一人者・橋山禮治郎氏。鈴鹿・亀山の市民、県内各地から72人が参加しました。

経済性・技術・環境、どれもダメ、必ず失敗する



講演する橋山禮治郎氏

橋山氏は、事業が成功するかどうかの判断基準として、目的に妥当性・必要性があること、確実な実現手段が用意されていること、をあげました。

必要性については、政府の審議会答申（2011年）でも「在来の新幹線は安全性、信頼性、省エネ性、速達性、ネットワーク

性、定時性、建設費用の点では優れているが、リニアの方が高速性の点では優れている」ので「リニアが適当である」と、「速い」ことしか利点がないのに、それでも「リニアだ」と強弁していること。経済性（採算が合うのか）、技術的信頼性（信頼できる技術かどうか）、環境適応性（環境破壊がないかどうか）の条件から見てもリニアは疑問だらけで、成功するプロジェクトではない。

このような問題をろくに検討もせず計画を進めれば、将来の国民および社会に利益をもたらさない「負の投資プロジェクト」になることは、ほぼ確実だ。工事費9兆円という今世紀最大、世界最大の計画が失敗すれば、日本の新幹線技術への高い国際的評価は失墜、技術立国の自壊を招く、と橋山氏は警告しました。

リニア路線は、鈴鹿市のどこかを横切って通る（約30年後）予定です。政府とJR東海は、今年中にも東京・名古屋間の工事着工を強行しようとしています。こんな無謀な計画は中止するしかありません。

全市「避難指示」で良かったのか？

8月9～10日にかけて接近した台風11号は、鈴鹿市にも大雨をもたらしました。9日夕方には三重県に初めて「大雨特別警報」が出され、鈴鹿市は6時30分に市内全域に「避難指示」を発令しました。

「大雨特別警報」とは、「数十年に一度の降雨量となる大雨が予想される場合」に出される、もっとも強い警報です。また「避難指示」も、「避難準備情報」「避難勧告」よりも強い情報で、「人的被害の発生が確実に迫っています。一刻も早く避難してください。」というメッセージです。

市民はどうしたらいいのか、よく分からなかった

ニュースなどで「全市に避難指示」を聞いた市民から、「どこに避難するのか」「そんなに多くの避難者が入れるのか」などの声が上がりました。そして実際に避難所に来たのは、最大で275人とのことでした。

市内を回ってみると、たしかに雨は多く降りましたが、2年前の台風で水が溢れた中央道路あたりも、今回は大丈夫でした。三重県1本、鈴鹿市1本の情報では、地域ごとの状態は分かりません。本当に避難すべきかどうか判断する「物差し」も、はっきり示されていません。

「広報すずか」6月5日号の「災害時の避難」特集の中に、「道路が浸水してからの避難は危険です。状況に応じて建物の2階以上に垂直避難することも有効です。」と書かれてはいましたが、どれほどの市民の認識になっていたでしょうか。

市は8月27日に災害対応検証会議を開いて、今回の問題点を出し合ったとのことで、近日そのまとめが発表される予定です。

中央道路延伸バイパス工事すすむ



今年度は三畑町から伊船町への約1キロ区間の4車線化、中央分離帯工事が行われています。来年3月にはフラワー道路手前まで開通の予定です。しかし、その先の東名阪鈴鹿インターまでの工事は未定。計画から25年以上経っても、完成はまだまだです。

三重県版学力テスト、11月から実施

「みえスタディ・チェック」という名称で、三重県の小中学校で学力テストが、この2学期から行われようとしています。小1から中3までの全学年で毎学期、全員が受けるテストで、国語、算数・数学、理科の科目が対象です。6月議会で私は、問題の印刷からテスト実施、採点、成績の集計、報告入力まで、すべて学校現場の負担になることは問題だと指摘しました。

9月補正予算に「スタディ・チェック事業費」324万円が計上されました。中身は、市教委がテストの印刷をまとめて行い、各学校に届けるための印刷費だとのことです。少しでも現場の負担をへらそうということですが、採点以後の仕事は、依然として先生方の大変な負担になります。

全国学力テストの点数引き上げ競争の手段に

8月26日に今年の「全国学力テスト」の結果が発表され、三重県は今年も正答率で全国下位、鈴鹿市は県平均よりちょっと下との数字が出て、県知事や教育長は「危機感」を表明しています。ますます「スタディ・チェック」のプレッシャーは強まりそうです。実施は11月28日前後の予定です。

テストの成績は低いより高い方がいいでしょうが、点数を上げるための「学力テスト対策」に血道を上げるのは、本末転倒と言わねばなりません。先生にも子供たちにもストレスがたまり「副作用」が出ないかが心配です。

平田野中全面移転、9月から新校舎



新校舎の中庭でテープカット

8月25日、完成した平田野中学校の竣工式がありました。ホンダの工場とショッピングセンターに挟まれた旧校舎から、田んぼや森の中に出来た新校舎に引っ越し、生徒たちは2学期から心新たに、勉学にスポーツに励みます。

広々とした校舎、余裕のある教室配置、体育館、グラウンドを見て回りました。来春から始まる給食のための設備もあります。残念なのは、普通教室にエアコンではなく、扇風機が2台ずつ付いているだけという点でした。

ずいそう



真夏の伊吹山に登る

毎年夏の楽しみは、信州の山を歩くことであるが、今年は天候のせいで実行することが出来なかった。去年7月の八ヶ岳で雨に降られたので、今年は梅雨入りの前に行こうと6月初旬に計画したのだが、なんと梅雨の方が先回りしてきて、予定した3日間とも晴れ間は見えず、ただの温泉旅行になってしまった。次には、8月の盆すぎにお誘いがあったので楽しみにしていたら、これも岐阜から長野にかけて雨雲が次々にやってきて、行く前に中止になってしまった。

どこにも行けずに夏が終わってしまうのも不本意だと思い、次善の策として近くの山への日帰りなら、その日の天気を見ながら行けるので、友人と伊吹山に登ることにした。念入りに天気予報を確かめて、やっと出発した。

登りも下りも汗だくの山道をひたすら歩く

伊吹山は、以前はスキー場があって3合目までゴンドラで上がったのが、今は廃止になっている。それを知らずに4年前に来て、下から歩いていたらもう3合目でフラフラ、頂上でダウンした苦い経験がある。今回は用意周到にタクシーを頼んで3合目までスイスイ、それから歩き出したが、やはり真夏の山は暑い。



8合目から下界をバックに

しかもこの山は陽当たり抜群、まったく木陰などもない。

フーフーと汗だくになってゆっくり歩いていると、7合目あたりで下から走って登ってくる人が大勢、次々と私たちを追い越していくではないか。聞いてみると、月末に頂上往復のマラソン大会があり、その練習だという。少しすると、さっき抜いていった女の子がもう折り返して下ってくる。それも平地を走っているような涼しい顔で「お先にー」。これには感心するとともに、自分の体力との格差を痛感させられた。

ようやく頂上に到着、大汗をかいた水分の補給にビールを一杯、うまい！そして下りもまた、大汗をかいて何とか麓にたどり着いたのであった。